

<記録⑰>

- ・日 時 : 2021年1月17日
- ・場 所 : コミュニティ・カフェ EMANON/奥州白川宿公園 (本町集会所前)
- ・参加人数 : 高校生5名 / 大学生3名
- ・実施内容 : イルミネーション撤収・解体



<記録⑱>

- ・日 時 : 2021年1月17日
- ・場 所 : コミュニティ・カフェ EMANON
- ・参加人数 : 高校生4名 (内1名オンライン) / 大学生1名
- ・実施内容 : マイプロジェクトアワード福島県 summit 参加



3. プロジェクト評価

i) 実施前に期待した効果

①中心市街地を舞台に地域課題の解決に取り組む若者プレイヤーの増加
数値目標：制作に携わる大学生および高校生の人数 30 人

②本町エリアの夜間通行人の増加

③SNS を通じた白河・中心市街地の魅力発信
数値目標：タグ付け投稿数 100

④市内の高校生の白河市への帰属意識の醸成

ii) 効果の検証

①中心市街地を舞台に地域課題の解決に取り組む若者プレイヤーの増加 **達成**
制作に携わった大学生および高校生の人数
のべ人数：120 人・日（大学生 67 人 / 高校生 53 人）
実人数：大学生 15 人 / 高校生 15 人

②本町エリアの夜間通行人の増加 **検証不可**
2021 年 1 月 9 日の福島県新型コロナウイルス感染拡大防止対策改定に伴い、夜間 20 時以降の外出自粛要請がなされたことから、効果は検証不可となった。
※当初イルミネーション点灯時間を 16:30～22:00 としていたが、点灯期間開始直前の県発表に伴い、16:30～20:00 に短縮した。

③SNS を通じた白河・中心市街地の魅力発信 **検証不可**
多くの若者が利用している Instagram や Twitter、Facebook 等 SNS において、イルミネーションを観覧した地域住民や学生がその様子を発信することを想定していた。結果、多くの市民が発信したが、公開範囲が発信者のフォロワーのみの投稿がほとんどで、正確な投稿数のカウントは困難だった。

④市内の高校生の白河市への帰属意識の醸成 **効果あり**

4. 研究レポート

テーマ①	高校生にプロジェクトを始める際に、どのような工夫をするべきか？
仮説	対話を通して高校生自身のやりたいという気持ちを引き出し、プロジェクトを自分ごととして始めること。
実践	本プロジェクトの計画段階において、「コミュニティ・カフェ EMANON」を利用する高校生に対して、学習支援を契機としてコミュニケーションを図り、「やってみたいこと」をヒアリングした。 また、対話のなかで高校生が感じている白河の地域課題について問いかけを行い、「白河は映えない」という問題意識を引き出すことができた。「やってみたいこと」と地域課題を掛け合わせたことから、自ら課題発見して、自己の興味関心をもとに行動を起こすことを促進できた。
検証	今回プロジェクトに参画した高校生の多くは1年生であった。自ら活動を実践した経験がなかったことに配慮して、活動の第一歩としてできる限り参加のしやすいもの、結果をイメージしやすいものを題材として設定した。 また、大学生が企画制作について全面的な協力をするをあらかじめ伝えたことで、プロジェクト実施に関して希望や疑問、SOS を大学生に話すハードルを下げ、安心して進められるようマインドセットした。

テーマ②	高校生がプロジェクトをやりきるためには、どのような伴走が必要か？
仮説	自分たちがこのプロジェクトを進めているのだというマインドセットを行い、意思決定の判断は高校生自身の手委ねる。また、プロジェクトを進める際に生じた困難に対して、無理だと諦めないように、「だったらこうしてみたら？」と声かけしつつ伴走する。
実践	<p>高校生たちにとって初めてのプロジェクトの実践だったため、本企画ではクオリティよりも、とにかくやり切ってもらうことを優先した。</p> <p>プロジェクト実施に際して、なぜこのプロジェクトを行うのか、自分たちは何をやりたいのか問いかけ、徹底的に考えてもらったことで、高校生たち自身の問題意識から活動をキックオフすることができた。</p> <p>大学生の関わり方として、意思決定の判断をなるべく高校生に委ねるよう心がけた。つい高校生は大学生に判断を仰いだり、頼ろうとしてしまいがちだったが、伴走者はあくまで一緒に考える立場であり、プロジェクトを進めてくれる人ではないという立ち位置を保った。</p> <p>また、プロジェクト実施中は、高校生の困難を切り崩すことを意識して、活動の場に居合わせて声かけできるよう心がけた。</p>
検証	<p>結果として、高校生はプロジェクトをやりきることができた。要因として3つあげる。</p> <p>①「白河は映えない」という高校生自身にしか感じ得ない感覚を問題意識として引き出すことができたこと。高校生の感覚を1番大切にし、高校生の「こうしたい」が実現されていくことを楽しく感じながら、自分事化することができていたように思う。</p> <p>②できる限りの決定を高校生が自分たちで下すこと。大学生に判断を仰いでも決定してくれず投げられるなか、高校生はプロジェクトを自分が進めなくては進んでいけないという感覚を持ち、自分事化していた。</p> <p>③大学生ができる限り高校生の活動の場にいることで、高校生は「できない・助けて」と思ったその場で相談でき、できないから活動が止まる・投げ出すという選択肢を与えなかった。</p> <p>12月末ごろ、高校生が「実際に完成するのか」「大変すぎる」と不安に襲われたことから、モチベーションの低下が見られた。これに対して大学生は粘り強く伴走を続け、高校生に「できる」と思わせるよう心がけた。</p> <p>プロジェクト完了後には、「高校生だからできない」から、「高校生だからできることがある」に、高校生の心持ちの変化がみられた。</p> <p>ただし、高校生が初めてプロジェクト立ち上げ、やりきるために、多大な時間的リソースを大学生が割かねばならなかった。本PJに参加した高校生たちの次の活動にどれほどのサポートが必要か、大学生のリソースの割り方はどうあるべきか今後検討していく。</p>

テーマ③	高校生の学びを支える地域のサポートを、いかにデザインするか？
仮説	プロジェクトの目的に掲げた高校生の地域参画を推し進めるべく、高校生の活動に対する地域住民の理解や支援の輪を広げるためには、情報の周知・高校生の活動の見える化が必要である。
実践	<p>■本町まちづくり協議会 連携したコミュニティ・カフェ EMANON（一社・未来の準備室）と日常的な関係を持ち、高校生と大学生とで挨拶に伺ってプロジェクトについて説明したところ、全面的な協力をいただいた。とくに町内での活動する際の相談や情報の周知についてご尽力いただいた。高校生が活動することに対して応援の言葉や「若い人が活動してくれて嬉しい、自分たちも何かしたい」という言葉をいただいた。</p> <p>■プロジェクトに必要なものをお貸しいただいた方々 （大谷忠吉本店・野村屋・でんきクラブ・ヤングオーレ他） コミュニティ・カフェ EMANON や本町まちづくり協議会を起点に、全て人づてに紹介いただき、必要な物品をお貸しいただくことができた。高校生と大学生とで直接ご挨拶に伺い、お願いをしたら全て最大限の協力をいただくことができた。</p> <p>■本町集会所近隣の店舗 イルミネーションの設置に際して、情報の周知が足りず、近隣店舗から「聞いていない」とクレームがあった。挨拶に伺ったところ、活動を反対しての苦情ではなく、ウイルス感染拡大や治安など人が集まることでの危険性をご心配いただいていたのご意見だった。対策を講じている旨を説明すると、「頑張って」「楽しんで」というお言葉をいただいた。</p>
検証	<p>活動に対して応援してくれない大人はいないように感じた。必要なことは、思いをきちんと直に伝えることだった。地域にとっての有益性を伝えることができれば、最大限の協力を得ることができると思う。</p> <p>また、コミュニティ・カフェ EMANON の全面的なご協力のもと、恒常的な関係性・既存のネットワークから、誰に相談すればよいか、しなくてはいけないかが分かり、スムーズに協力の打診をすることができた。地域のサポートという面で、コミュニティ・カフェ EMANON のような、地域のハブは必要不可欠だと感じた。高校生や大学生個人ではなかなか得ることのできない情報を提供してもらい、より効果的・効率的に活動を進めることが可能だった。</p>

テーマ④	高校生が活動を通して得られる学びとは？
仮説	プロジェクトの実施に伴い、地域の様々なステークホルダーとの交流を通して、高校生が地域を知る・使う機会となる。また、プロジェクトを企画・運営することにより、社会で生きていくのに必要な知識・技能・態度や価値観を実践的に身に付けていくことができる。
実践	<ul style="list-style-type: none"> ■知識 <ul style="list-style-type: none"> ・白河の魅力は何か ・若者にとって映えるとは何か ・建築（設計） ・数学（建築に伴った） ■技能 <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり（DIYスキル） ・コミュニケーション能力 ■態度や価値観 <ul style="list-style-type: none"> ・自分でもできる、自分たちだからこそできることがある ・必要なものがなければ作りだす ・「やりたい」を口に出せば、周りが助けてくれる ・自分だけでできなければ、助けてもらえばよい
検証	<p>高校生が地域について知る・考える契機となり、白河の魅力を再確認し、それを自分たちなりに広める機会となった。</p> <p>知識・技能・態度や価値観の結びつきから起きる行動（コンピテンシー）の質を高めていくことを目的とするなか、今回は、態度や価値観の部分では、大きな学びを得ていたように思う。一方、知識・技術の部分で大切にすることができていなかった。全体としては、高校生が次の活動を行うことを考えていることから、良い態度や価値観を形成することができていると思う、大きな学びの機会を提供できていたと思う。</p> <p>課題として、高校生が得られた学びを効果測定するには指標が必要だった。今後活動を行う際には、ルーブリックを作成し数値的に学びを可視化することができれば理想状態である。</p> <p>あるいは、学びを全て具体的に書き出すことも一手だと考える。例えば、構造物の屋根をつける際に直方体の上に屋根を取り付けようとした時に、直方体の大きさから余弦定理（数学1 図形と計量）を用いて屋根の大きさを計算した。プロジェクトに伴って起きた学びを、全て可視化しまとめることができれば良いと思う。</p>

テーマ⑤	大学のない白河で、高校生が大学の学びやその後のキャリアを想像するにはどうすればよいか？
仮説	活動を進めながら活動を進めることで卒業後の進路を描くきっかけとなる。
実践	活動の休憩時間や単純作業を行う際に、高校生と大学生とが膝をつきあわせて様々な話をする時間を作ることができた。具体的には、進路の相談や高校生自身の興味関心は何かを話すことができた。
検証	進路・キャリアの話には、自己開示が必要であったり家庭環境も関わったりするため、相手との信頼関係がない中で深く話すことは難しい。活動があることにより、高校生と大学生との間で関係性が早いタイミングで構築でき、個人的な事情に踏み入った話をすることができた。 また、大学生が大学生活や自身の就活の話を高校生に聞かせることで、高校生は大学生が今思っていること・考えていることを直接聞くことができ、大学での学び方・自分の興味関心について考えるきっかけとなっていた。

5. 【参考資料】高校生によるプレゼン資料

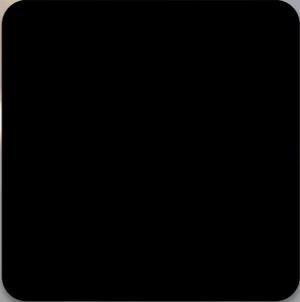


自己紹介

城下町映えさせ隊

メンバー 白河旭高校 1年

修明高校 2年



福島県白河市って...？





活動のきっかけ

白河は
映えない！

白河の課題

白河は映えない



若者にとって白河が魅力的じゃない



若者が白河に興味関心をもたない

若者が興味関心を持たない

↓
若者がどっか行っちゃう

↓
白河らしさ継承されない

ぴえん

それならば...

自分たちの目線で

白河の魅力を

同世代に伝えたいのでは？

大人ではなく、同じ目線に立つ自分たちが行動する

大人に任せたら映えないから...

高校生が映えさせたいじゃん！！！！

→「城下町映え映え大作戦！！」始動

映えさせるために...

城下町にイルミネーションを作ろう！

プロジェクトの目的

1. 自分たちで白河を映えさせること
2. 白河の良さを高校生に伝える
→伝統継承につなげる

自分たちがこのプロジェクトをやろうと思った理由

1. 今まで話したことのない人たちと関わりたい
=コミュ力を高めたい！
2. 新しいことをやってみたい！
3. 自分たちで何か作りたい！

活動内容

11月 ミーティング

12月 制作内容の決定→制作

1月 制作→点灯→撤収



ミーティング





作業風景

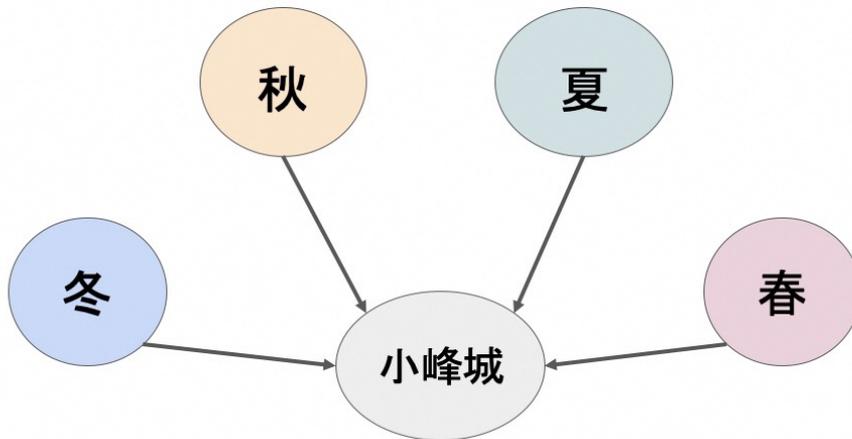




点灯式



全体図





春

~SAKURA~



~MATURI~

夏



秋

~SHIRAKAWA
TYOUTINMATURI
~

冬

~SWAN~



イルミネーション作りで関わってきた人

- ・ 高校生、大学生
⇒ 企画作成の手伝い

- ・ 地域の人
⇒ アドバイス、
提供、物品貸出し

本町イルミネーション

～ 城下町映え映え大作戦!! ～

点灯期間：1月11日～1月16日
点灯時間：16時30分～22時
点灯場所：本町集会所前（奥州白河宿公園）



私たち「城下町映えさせ隊」は、コミュニティ・カフェEMANONを活動拠点にする高校生グループです。
『白河の魅力』を高校生に知ってもらいたい！
『白河をもっと明るくしたい！』という思いで活動しています。
この度、大学生の力を借りながら、イルミネーションの企画・制作に取り組んできました。

そんな私たちの思いが皆さんに届きますように。
ぜひ、イルミネーションを写真に撮って楽しんでください。

#本町イルミ #城下町映えさせ隊

主催：城下町映えさせ隊・ShirakawaWeek実行委員会
後援：本町まちづくり協議会

白河まちづくり推進センター 協賛
福島県地域創造推進支援事業（サポート事業） 補助金 提供

高校生制作 電飾とみる
地域のシンボル表現

白河市の四季を表現したイルミネーション

白河市 @City_Shirakawa · 2021/01/08
【本町イルミネーション～城下町映え映え大作戦！～】
高校生が主体となり、小峰城や四季の風景を題材にしたイルミネーションを開催！ぜひご覧ください。
点灯式 1月11日（月）午後4時
点灯期間 1月16日（土）まで
午後4時30分～午後10時
場所 本町集会所前
#白河市 #本町イルミ

本町イルミネーション
～ 城下町映え映え大作戦!! ～

白河市
1月8日 12:10

【本町イルミネーション ～城下町映え映え大作戦！～】
『城下町映えさせ隊』が主体となり、小峰城や四季の風景を題材としたイルミネーションを開催します！ぜひご覧ください。

点灯式 1月11日（月） 午後4時
点灯期間 1月16日（土）まで 午後4時30分～午後10時
場所 本町集会所前（本町67番地付近）
主催 Shirakawa Week実行委員会
後援 本町まちづくり協議会

◇「城下町映えさせ隊」とは
コミュニティ・カフェEMANONを拠点に活動している高校生グループです。
白河をもっと明るくしたいとの思いで活動中です。

コミュニティ・カフェEMANONホームページ
<https://emanon.fukushima.jp/>

#しらかわ #白河市 #福島県 #しらかわん #南湖 #小峰城 #みちのくの玄關 #本町イルミ #城下町映えさせ隊 #エマノン #EMANON 表示を縮小

他51人 シェア5件

- ・ 行政の人、
マスメディア
⇒ 発信してくれた

市のSNS、
福島民報に載った！

イルミネーションを作ってみて

- ・ 大変だったこと
- ・ 気づいたこと

問いの変化

自分たちはできるのか？完成できるのか？
映えさせるためにはどうすればいいか？



興味を持って活動に参加してくれる高校生を
増やすにはどうしたらいいのか？



行動を起こす高校生を増やすにはどうすればいいか？

学び

- ・ 「やりたい」という気持ちを口に出すことの大切さ
- ・ 分からないことは、
周りの人に聞いたり手伝ってもらふことの大切さ
- ・ 高校生だからできないじゃなくて、
高校生だからできる！

これから

- ・ 別な方法でも映えさせて盛り上げる！
- ・ 今だからできることを、
「白河」を利用して活動していきたい

ご清聴
ありがとうございました！